

看護部だより

ひまわり

2015年9月
発行責任者：小牧加代子

Vol. 38



認定看護師合格

4階東病棟 濱田幸蔵

2015年7月、「がん化学療法看護認定看護師」を取得しました。がんと診断された患者は、ショックや動揺する中で治療を受ける決断をしなければなりません。揺れ動く気持ちを支えられるように看護をしていきたいと考えています。治療は辛く日常生活に影響を生じることがあります。日常生活が少しでも安楽に過ごせるような看護を提供していきます。

★看護は、私一人ではできません。スタッフの力が必要です。リンクナースを育てながら、現場スタッフの力を発揮できるように、私自身も学習に努め、その学びをスタッフのみなさんに還元していきたいと思います。



新人ローテーション研修を終えて

3階東病棟 東 さおり

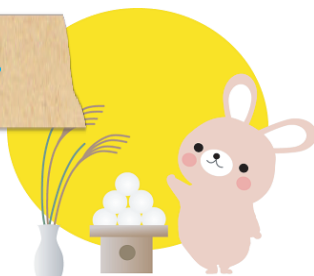
4月から始まった新人研修が終了しました。ローテーション当初は、分からないことが多く、何が分からないのかさえ分からなくなり、自分の知識不足や技術の未熟さに自信をなくす日々が多かったです。バイタルサイン測定時、上手に患者さんから症状を引き出すことができませんでした。日々の担当看護師の方に詳しく状態を伝える患者さん、先輩看護師の姿を見て大切なのは日々の関わりの中で生まれる信頼関係であり、人と人の繋がりでであることを学びました。そして、まずは、病態を把握できていなければ患者から大切な情報も得ることができないということを痛感しました。無力さに落ち込む私に、それぞれの部署で先輩方が声を掛けて下さったり、自分が新人だった頃の話をして、励まして下さったり、同じことを聞く私にあきれもせず一生懸命指導してくださいました。また、ローテーションでは、自分の欠点や傾向にも気付くことができ、辛かったけど、振り返れば自分の成長と、さまざまな面で勉強になりました。これからも日々学習を行い、知識・技術を深めていきたいです。

4階東病棟 西原 綾乃

ローテーション研修で、各病棟それぞれでさまざまな疾患を持った患者さんに必要な治療や看護、関わり方などについて先輩看護師の指導のもと多くの事を学びました。初めて経験することも多く充実した毎日を過ごすことができ、長いと思っていた5か月はあっという間に過ぎてしまいました。たくさんの患者さんやその家族と関わり、入院や治療に対する思いや退院後の生活に対する不安など、患者さんはさまざまな思いを抱えているということを知りました。そのような患者さんに対して先輩看護師より指導を受けながら、少しずつですができることも増えてきました。

呼吸器・循環器病棟へ配属となり、これからもっとたくさんの事を経験し学んでいく中で、今回の新人看護師ローテーション研修で感じた事・学んだことを忘れずに、これからの看護に活かしていきたいと思います。まだまだ知識も技術も未熟で迷惑をかけてしまうこともたくさんあると思いますが、一生懸命にがんばりたいと思います。

院内研修報告



7/23 キャリア研修(1年目) 『看護管理・看護倫理』

講師:長井副看護部長

「管理」、「キャリア」という言葉の定義・概念を整理しつつ、「フロレンス・ナイチンゲール、ジョイス・トラベルビー・ヴァージニア・ヘンダーソン」などの理論家から自己の看護観を学ぶ良い機会になったと思います。又、「臨床倫理の4分割表」をはじめ、マネジメント力向上のためのPDCAサイクル等、今後キャリア育成において役立てられる研修内容でした。

4階東病棟 久保



8/4・8/18 スターティング研修『KYT』

講師:城ノ下師長

2グループにわかれ、危険を予知し根拠を持った安全行動が確実にできるために、危険場所・場面を設定し、危険環境がどのように危険なのか、という根拠を考え、危険回避行動をお互いのグループで確認し合いました。実際に、お互いの危険場所・場面を見た時に「この状況は目にしたことがある。危ない!」「患者さんをとりまく環境は危険な場所がたくさん!環境整備が重要。この状況は自分では予知できなかった」など、自分以外の視点から、いろいろな気づきをしていました。

今回の研修で学んだことを活かし、危険環境の把握と危険を予知した安心・安全な看護を行っていきましょう。

3階西病棟 福岡



7/30 ジャンプ研修『PNS研修』を受講して

3階西病棟 原園

PNSは看護師2名が協働してケアを行う「2人3脚型」であり、パートナーの技術や知識を実践的に学びながら、処置をよりスムーズに効率よく行う事ができるので、お互いのスキルアップにつなげられると改めて感じました。また受け持ち患者に対し、1人の看護師が担当となっていたところに比べ、患者の治療経過・看護計画等を複数の目で見て、考え、アセスメントすることで、より個別性のある看護提供が行えると思います。研修で学んだことを日々の看護につなげていきたいと思っています。

8/11 ウォーキング研修『メンバーシップ』

講師:小牧師長

講義の内容はメンバーシップ・リーダーシップとは、メンバーの定義、業務・役割について、コーチングについて講義とグループワークがあり「良いメンバーとは・他者に求められること」について1人1人が意見を出しており、協調性、協力性、積極性、チームワークと業務をする中でメンバーそれぞれが自覚していかなければならないことを改めて学んだと思います。今回の研修で学んだことを活かしていけるよう、教育委員でも指導や声かけなどを行い、看護ケアや業務が円滑に進むようにしていきたいです。

4階西病棟 飯田

9/1 専門研修『フィジカルアセスメント』

講師:猿楽大輔

9/3 専門研修『感染看護Ⅱ』

講師:中野師長

9/1にフィジカルアセスメントの初級編、9/3に感染看護Ⅱの研修が行われ院外からの参加者も多数ありました。フィジカルアセスメントの研修は、意識(瞳孔)、呼吸(SPO2)、循環(血圧)のグループに分かれ、自分たちでテーマを決め、そのことについて深く追求し調べた内容を発表しましたが、なかなか上手くプレゼンテーションができない場面もありました。普段当たり前のように観察している事でも、調べれば調べるほど理解できていないことに気づき大変難しかったようです。基本を理解することが大事だと改めて考えさせられ、フィジカルアセスメント能力を向上させたいと思った講義でした。

感染看護Ⅱの研修のなかで、三方活栓は消毒が最も重要で、酒精綿で10回以上擦らなければ清潔にならないということです。また膀胱留置カテーテルは、患者さんにとって本当に必要かどうかをアセスメントし、早期抜去を目指すことが大事です。自分たちが感染源にならないこと、予防する高い意識が重要であり、今回研修に参加した看護師が情報の伝達を臨床現場で行い、実践していくことを期待します。

3階東病棟 島中



e-ラーニング研修報告

『看護業務と医療安全』を受講して

4階東病棟 野元

呼吸器・循環器病棟での日々の勤務は、患者さんの状態も変わりやすく、処置やケアなどみんな忙しく動き回っています。PNSの導入でパートナー間でのダブル確認・相談などが、行いやすくなりましたが、自分自身、パートナーに頼ってしまう事も多く、安全面でももっと責任をもって行動するべきだと感じました。ひとつ間違えば、命に関わるような危険にもつながる仕事だからこそ、細かいところまで目を配り、安全に行動し、落ち着いた対応で患者さんと関わっていきたいと思います。

『急変対応 すぐやる技術』を受講して

4階西病棟 大谷

看護師になり夜間の急変時の対応にあたる機会も増えました。最初は他スタッフの動きを見ながら、指示されたように動いているだけでした。机上の学習だけでは実際の現場で動くことが出来ず、何度か急変・挿管介助にあたる中で少しずつ準備するものや手順などを自身で考え、必要なものを準備しておく事ができるようになってきました。回数を重ねることで自分自身にも自信が付き、急変の患者さんだけでなく、他の患者さんの状態なども気かけながら行動していく事ができ、冷静になって対応していく重要性を急変対応の中から学ぶことができました。

まだまだ先輩看護師の指導や協力をもらいながらですが、自信を持って対応していけるように、知識と技術を身に付けていきたいです。

院外研修報告

『看護教育の質の向上教育会Ⅱ』を受講して

外来 平師長

臨床指導者研修会に参加して4～5年が過ぎ、院内臨床指導者調整者としての役割を担っていますが、今回フォローアップ研修に参加して、学生に対する指導者の関わり的重要性を再認識する機会となりました。

学生に対して「名前と呼ぶ」「挨拶の時は、作業の手を休めて学生の顔をみて挨拶を返す」などほんの些細な行動、明日からすぐに実践できる行動ですが、忙しい業務の中では、しているつもりでも案外できていない場合があるのではないのでしょうか？自分の行動を再度見直し、学生が実習しやすい環境を整えていくことも指導者に求められていると思います。

共に育つ「共育」へ変化していくことが必要であると感じました。

『専門職としての第一歩・

～看護師としての自覚と責任ある行動について考える～』を受講して

4階東病棟 原口

看護師として働かせていただく前、わたしはしっかり患者さん1人1人と向き合い、心の拠り所になれるような看護師になりたいと思っていました。しかし、実際に現場に出て働くようになると仕事を覚えることばかりに気を取られてしまい、患者さんと向き合うことを後回しにしている自分がいました。

今回、事例《看護の語り「患者さんとのパートナーシップを築く中で」》に基づき、他施設の新人看護師の方々とディスカッションすることで改めて気づかされることが多くありました。業務的なことは経験や知識によって差が出てしまうけれど、患者さんの思いに寄り添うことは、新人のわたしでも十分可能なことです。患者さんが不安や思いを表出しやすい人間関係を築き、心の拠り所となれるような看護師を目指したいと改めて強く思いました。

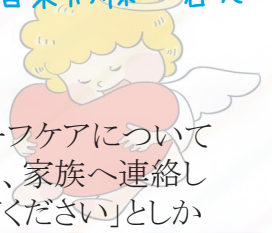


ミニナラティブ

4階東病棟 岩元

「家族看護の難しさを学んで・・・」

看護師として2年目となりました。急性期とターミナル期の入退院患者が多い中で、グリーフケアについて考える経験をしました。家族の付添がいない時にターミナル期にある患者の心拍が0となり、家族へ連絡したところ電話越しに動揺とパニック状態であることがわかりました。家族へ「気を付けて来てください」としか伝えることができませんでした。家族が来院した時、「どうして？どうして？」と泣きながら訊ねられました。私は状態が悪化した経緯しか話すことができず、どのような言葉をかけ、そばに寄り添えばいいのかわかりませんでした。受け持ち患者であったため、自宅退院を目標に家族とも関わりを持っていただけに、最後に家族から目を背けてしまうような結果になってしまい、後悔が強く残りました。この経験で家族看護の難しさを痛感しました。今後グリーフケアの学びを深め、寄り添う看護を意識しながら患者・家族への対応を心がけていきたいです。



マイブーム

1年ほど前に我が家にホームベーカリーがきました。きたときは嬉しくて、早くパンを焼きたいと思っていましたが、手作りパンについてまったく知識のない私は、イースト菌？ドライイースト？どこに売っているの？という状態で材料を揃えることもままならず、それから半年くらいホームベーカリーは戸棚の中に眠っていました。しかし、これではいけないと思い立ち、半年ほど前にやっと材料を揃え、初めてパンを焼きました。専用の容器に、計量した材料を入れてスイッチを押すだけの簡単な物でしたが、焼けてくるとだんだんいい香りができて子供たちも「何の匂いなの？」ととても興味津々でした。自分で焼いたパンでサンドウィッチを作ったり、チーズトーストにしたり、おいしくてあつという間に無くなってしまいます。これからは、子供たちと一緒にいろいろな種類のパン作りに挑戦したいと思います。

回復リハビリ病棟 猿楽



インターンシップ実施の報告

8月5日(水)と8月15日(土)の2回実施しました。地元出身者4名の方の参加があり、2名は来期卒業予定で、当院への就職を視野に入れて参加してくださいました。2名は再来年の卒業見込みであり、早い機会にインターンシップを経験することでたくさんの情報の中から就職先を検討したいという目的での参加でした。病院の概要・教育体制の説明後、希望部署で看護体験を実施し、昼食は新人ローテーション研修の経験と出身校が同じ先輩看護師と一緒に食事をしながら交流を図りました。アンケート結果、「インターンシップ参加の目的は達成できた。就職準備・心構えについて考える機会になった。」と参加者全員が答えていました。また就職を決める重視項目として、「病院・看護部の理念・姿勢や研修・教育体制、看護内容、人間関係」が多いでした。実際に、「希望部署で看護体験をしたことで職場環境の雰囲気を感じることができよかった」と回答がありました。やはり新人看護師のローテーション研修やPNS看護方式、フォロー体制、職場環境が重要なポイントであると感じました。

(小牧)

～編集後記～

先日の台風15号で、思い知らされたことは自然の驚異と電気と水の有り難さでした。病院は自家発電に代わり当日のうちに停電が復旧しましたが、我が家はその3日後でした。仕事場では何不自由なく過ごしているのに、家に帰れば暗闇での生活！アロマのろうそくをつけて少しでも楽しみつつもスーパーで日持ちのする食料品を買い込み、世間から取り残された感がありました。電気が復旧し元の生活に戻った時、遠くからも不眠不休で作業に来ていただいていた災害復旧支援活動の方々の崇高な仕事に感銘しました。

(小牧)

